

年頭所感

次世代に誇れるまちづくり

明けましておめでとーございませう



成田市長
小泉一成

医学部としては、東日本大震災復興の特例を除くと38年ぶり、首都圏では実に43年ぶりの新設となります。

この医学部は、本市と大学の国家戦略特区の取り組みにより新設が認められたものです。世界最高水準の国際医療拠点をつくるという特区の趣旨を踏まえ、国際的に活躍できる能力を備えた医療人材の育成を目的としています。

昨年4月に開学した成田看護学部・成田保健医療学部に加え、新たに医学部が開学することで、「地域の医療・保健・福祉に貢献する」という強い信念と「世界に羽ばたいて活躍する」という高い志を持った若者がここ成田に多数集うことになり、本市がより活性化することが期待されます。併せて、千葉県の医療人材不足の解消にも大きく貢献するとともに、さまざまな分野の公開講座が開設されるなど、市民文化の向上も図ら

れます。

また、平成32年には640床規模の付属病院が畑ヶ田地区に開設される予定です。診療科目は39科を有し、どんな疾病にも対応できる体制となります。これにより、成田の医療環境は一段と向上し、市民の皆様が安心して先進的で高度な医療を身近で受けられるようになります。

世界に通ずるまち「なりた」に、国際性を兼ね備えた医学部および付属病院が設置されることで、国際医療学園都市として、人口の増加、雇用の創出、地域経済の活性化が図られるとともに、日本の優れた医療が成田から世界に発信されることを願っています。

人口動態と子育て支援

昨年10月に総務省が発表した平成27年国勢調査の確定値によると、平成22年と比べて、日本の人口は96万3,000人減少したことが分かり、調査開始以来初の減少となりました。65歳以上の老年人口

市民の皆様には、平成29年の新春を健やかにお迎えのこととお慶び申し上げます。

今年^{とし}は酉年です。十二支の10番目に当たる酉は、果実が成熟に達した状態を表します。また、酉はニワトリのことであるともいわれております。新年の朝一番に鳴くことから、大変縁起が良いとされ、私も、縁起の良い酉年にあやかるとともに、正鶴^{せいじやく}を射た市政運営に努めてまいります。

世界最高水準の医療を成田に

昨年8月31日に国の設置認可を受け、本年4月に国際医療福祉大学医学部が開学します。わが国の

国際空港都市の玄関口として多くの人に利用されるJR成田駅前広場

割合は26・6%となり、4人に1人が高齢者となる一方、15歳未満の年少人口割合は過去最低の12・6%でした。

そのような中、本市は人口が増加し、65歳以上の人口は21・2%、15歳未満の人口は14・1%でした。全国の年齢別構成よりも本市の高齢者の割合は低く、年少人口の割合は高い状態です。しかし、市の人口動態の推計では、今後、65歳以上の老年人口は最大で33・5%になると見込まれる一方、15歳未満の年少人口と15歳以上65歳未満の生産年齢人口は減少するとして

います。少子高齢化社会を迎える中で重点目標の一つに、本市が安定して発展していく基盤として「子育て世代に魅力あるまちづくり」を掲げており、待機児童の解消、合計特殊出生率1・62を目標に据えています。これらを実現するためには、子育て世代に寄り添った支援策を実施していく必要があります。

ることが期待され、子育て支援が充実します。

健康づくりと生きがいづくり

今年4月には、旧豊住中学校が市民の健康づくり、体力づくり、生きがいづくりを支援するための施設として生まれ変わります。施設内には、運動不足解消や健康維持を推進するためのトレーニング室やスタジオ、ふれあいや交流の場としての談話室、そして学習室や多目的室などを兼ね備えています。

若者から高齢者までが集うことにより、地域コミュニティがより豊かに醸成されることが期待され、明るく健やかに生活していくための拠点施設として多くの市民の皆様が親しまれ、利用されることを願っています。

輸出拠点機能を持った卸売市場の再整備

成田市公設地方卸売市場は、老朽化・未耐震化などの課題を抱えていたことから、どのような形で再整備をするか検討を重ねた結果、農林水産物の輸出拠点機能を有する市場として再整備に取り組むこととなりました。

輸出拠点機能には、成田空港、東関東、圏央道などの充実した交通ネットワークの利点を最大限活用できる立地と必要十分な面積との観点から、県花植木センター跡地を候補地とし、移転再整備に向けて大きくかじを切りました。

新しい市場では、充実した交通ネットワークを生かし、本市のみならず空港周辺の市町や千葉県をはじめとした日本の農林水産物の輸出を推進してまいります。また、空港に隣接する立地を生かし、市民の皆様や空港を利用する国内外のお客様が気軽に立ち寄り、買い物や日本の「食」を楽しんでいただけるような施設も備えてまいります。

農林水産物の輸出拡大は、国の成長戦略の柱としても位置付けられており、平成32年開場を目途に新生成田市場のあり方を早急に策定し、スピード感を持って果敢に取り組んでまいります。

成田空港の機能強化と地域振興

訪日外国人旅行者は毎年増加の一途をたどり、昨年は初めて2,000万人を突破しました。平成32年に4,000万人を目標とする政府は「地域観光資源の磨き上げやインフラ整備などの施策を今後も強力に推進していく」としています。

こうした背景を受け、第3滑走路の整備、B滑走路の延伸、夜間飛行制限の緩和といった成田空港の機能強化策が提案されました。成田空港と共に成長してきた本市は、空港の機能強化は本市の発展につながるものと考えていますが、一方で、機能強化に伴う発着回数の増加、夜間飛行騒音、航空機からの落下物など、騒音地域に住む皆様の生活環境への影響も懸念されます。

市として、機能強化と環境対策、地域振興策は一体的に取り組まなければならないと考えており、騒



成田空港から飛び立つ航空機

音下の住民の皆様と真摯に話し合いを重ねてまいります。

医学部の開学、市場の再整備、空港の機能強化はいずれも、世界に通ずるまち「なりた」だからこそ取り組めることです。本年は本市のこうしたポテンシャルを最大限に生かし、積極的に取り組んでいくことで、未来を見据えた「次世代に誇れるまちづくり」を進めるとともに、市民の皆様「住んでよし、働いてよし、訪れてよし」を実感していただけるよう、取り組んでまいります。

本年も、市民の皆様の温かいご支援、ご協力をお願い申し上げます。年頭のあいさつといたします。



開場40年を経て再整備の時を迎える成田市場